



雪印メグミルク

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2020年8月12日

上場会社名 雪印メグミルク株式会社 上場取引所 東 札
 コード番号 2270 URL <https://www.meg-snow.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 啓治
 問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 渡邊 健太郎 TEL 03-3226-2124
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	156,298	1.0	5,026	△0.8	5,474	△7.1	3,176	△16.9
2020年3月期第1四半期	154,698	2.5	5,069	6.5	5,894	16.8	3,825	13.2

（注）包括利益 2021年3月期第1四半期 3,721百万円（17.0%） 2020年3月期第1四半期 3,180百万円（△4.6%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	46.93	—
2020年3月期第1四半期	56.50	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	383,825	179,105	45.9	2,602.36
2020年3月期	370,434	178,094	47.3	2,586.86

（参考）自己資本 2021年3月期第1四半期 176,161百万円 2020年3月期 175,112百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	—	—	40.00	40.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	40.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	312,000	0.1	9,400	△11.6	10,200	△13.1	6,400	△16.9	94.54
通期	620,000	1.1	19,000	5.6	20,500	4.2	13,000	6.9	192.04

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	70,751,855株	2020年3月期	70,751,855株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	3,058,993株	2020年3月期	3,058,747株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	67,693,013株	2020年3月期1Q	67,699,960株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しております。

当社は2020年8月12日（水）にアナリスト、機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。この電話会議における資料は、当該決算短信および補足説明資料を使用します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

(補足説明資料)

2021年3月期 第1四半期決算短信 補足説明資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により急速な悪化が続き、極めて厳しい状況にありましたが、足もとは緊急事態宣言の解除に伴う社会経済活動のレベルの段階的な引き上げに向けた動きもあり、下げ止まりつつあります。

先行きについては、新型コロナウイルスの感染予防と社会経済活動の両立に取り組む中で、極めて厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待されるものの、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響による消費者マインドの悪化とともに急速に減少しておりましたが、緊急事態宣言の解除に伴い、悪化傾向に歯止めがかかりつつある中で持ち直しの動きもみられます。

食品業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響は未だ大きく、外出自粛に伴う巣ごもり消費の拡大により売上が好調に推移していた小売業に落ち着きが見られる一方で、飲食業では緊急事態宣言の解除後も回復の遅れが目立っており、総じてみれば回復に向けた動きは鈍い状況です。

企業においては、個人消費が落ち込む中でも、価値観や嗜好の多様化に対応し、機能を明確に訴求する商品や生活シーンを提案する商品を求める動きが強まり、レシピ提案やSNSを通じた情報発信などの対応を強化する動きもみられます。

このような経営環境下、当社グループは新たに策定した「グループ中期経営計画 2022」に基づき、「4つの事業分野（乳製品事業分野、市乳事業分野、ニュートリション事業分野、飼料・種苗事業分野）における収益基盤の確立」に向けた取り組みを進めております。この中では、機能性ヨーグルトを軸とした発酵乳事業およびチーズなどの主力商品の戦略的拡大に伴うプロダクトミックスの更なる改善、ニュートリション事業分野におけるマーケティング投資の継続による規模拡大と収益獲得の両立、種苗事業における戦略的拡大と収益基盤の整備、ならびにグループ経営資源やバリューチェーンの活用拡大によるグループ総合力の強化等に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による学校給食の休止や外食需要の減退に伴い牛乳などの需要が大幅に減少する中で、生乳廃棄の回避に向け需給調整機能を果たすべく生乳処理に取り組みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、売上高は156,298百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は5,026百万円（前年同期比0.8%減）、経常利益は5,474百万円（前年同期比7.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,176百万円（前年同期比16.9%減）となりました。

セグメントごとの当第1四半期連結累計期間の業績は次のとおりです。なお、セグメントごとの売上高につきましては、外部顧客に対する金額を記載しております。

① 乳製品

当セグメントには、乳製品（チーズ、バター、粉乳等）、油脂、ニュートリション事業（機能性食品、粉ミルク等）等の製造・販売が含まれております。

売上高は65,793百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益は3,252百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により内食需要は高まる一方、外食需要は落ち込むなど、販売チャネルごとに影響が生じております。このような中、バターは安定供給に引き続き努めたことから堅調に推移しました。油脂は家庭用市場がこれまでの縮小傾向から拡大に転じたこと、新しい食べ方提案等のプロモーション活動を展開した効果などから増収となりました。チーズはTVCM等のプロモーション活動の効果や、家庭用市場が伸長したことなどから増収となりました。機能性食品は特定保健用食品の毎日骨ケアMBPがマーケティング投資の継続により伸長しました。これらの結果、当セグメント全体では増収となりました。

営業利益は、新型コロナウイルス感染症による外食需要の減退があったものの、内食需要の高まりにより家庭用商品で販売物量が増加したことなどから増益となりました。

② 飲料・デザート類

当セグメントには、飲料（牛乳類、果汁飲料等）、ヨーグルト、デザートの製造・販売が含まれております。

売上高は69,566百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は874百万円（前年同期比40.0%減）となりました。

売上高は、飲料は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた休校措置に伴う学校給食の休止や、外出自粛などを背景とした消費動向の変化の影響などを受け減収となりました。ヨーグルトにおいても消費動向の変化の影響などを受け、プレーンヨーグルトなどの商品は堅調に推移したものの、機能訴求型商品の「ガセリ菌SP株」や「乳酸菌ヘルベ」ヨーグルトはプロモーション活動を展開しましたが減収となりました。デザートは新商品の発売等、商品力の強化に取り組んだこと、巣ごもり消費の拡大に伴い市場が伸長したことなどから好調に推移しました。これらの結果、当セグメント全体では減収となりました。

営業利益は、宣伝促進費の効率的な運用に取り組んだ効果はあったものの、新型コロナウイルス感染症による消費動向の変化の影響などを受け販売物量が減少したこと、オペレーションコストが増加したことなどから大幅な減益となりました。

③ 飼料・種苗

当セグメントには、牛用飼料、牧草・飼料作物種子、野菜種子の製造・販売、造園事業が含まれております。売上高は11,846百万円（前年同期比4.3%減）、営業利益は714百万円（前年同期比11.8%増）となりました。売上高は、造園事業の大型案件増加による増収があった一方、牧草・飼料作物種子および飼料の販売物量減少などにより当セグメント全体で減収となりました。

営業利益は、販売費および一般管理費等の経費低減により増益となりました。

④ その他

当セグメントには、共同配送センター事業、不動産賃貸事業等が含まれております。

売上高は9,092百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は280百万円（前年同期比17.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債および純資産の状況

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して13,391百万円の増加となりました。

これは主に、受取手形及び売掛金や現金及び預金、有形固定資産その他に含まれる建設仮勘定が増加したことなどによりです。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して12,381百万円の増加となりました。

これは主に、長期借入金や支払手形及び買掛金が増加したことなどによりです。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して1,010百万円の増加となりました。

これは主に、その他有価証券評価差額金や利益剰余金が増加したことなどによりです。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、18,109百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの原因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,090百万円の収入（前年同期は8,610百万円の収入）となりました。

前年同期との比較では、主に売上債権およびたな卸資産の増加により収入が減少したこと、また、未払法人税等の支出が増加したことなどにより、6,519百万円の収入減となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、6,257百万円の支出（前年同期は3,516百万円の支出）となりました。

前年同期との比較では、主に有形及び無形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、2,741百万円の支出増となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、6,855百万円の収入（前年同期は3,278百万円の支出）となりました。

前年同期との比較では、主に長期借入れによる収入が増加したことなどにより、10,133百万円の収入増となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月13日の決算短信で公表した業績予想値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,536	18,114
受取手形及び売掛金	71,880	75,637
商品及び製品	42,998	44,450
仕掛品	1,044	649
原材料及び貯蔵品	14,954	15,433
その他	5,183	4,739
貸倒引当金	△410	△405
流動資産合計	151,187	158,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	46,497	46,816
機械装置及び運搬具(純額)	54,136	54,940
土地	49,910	49,682
その他(純額)	20,487	24,214
有形固定資産合計	171,031	175,653
無形固定資産		
のれん	719	601
その他	3,007	2,988
無形固定資産合計	3,727	3,589
投資その他の資産		
投資有価証券	34,807	36,168
繰延税金資産	3,006	2,907
その他	6,928	7,132
貸倒引当金	△255	△245
投資その他の資産合計	44,487	45,963
固定資産合計	219,246	225,207
資産合計	370,434	383,825

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	55,354	56,809
電子記録債務	5,436	5,264
短期借入金	18,140	18,102
未払法人税等	3,740	752
賞与引当金	5,212	2,893
その他	32,435	38,196
流動負債合計	120,319	122,018
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	35,129	44,922
繰延税金負債	858	1,909
再評価に係る繰延税金負債	3,959	3,898
役員退職慰労引当金	20	20
ギフト券引換引当金	79	76
退職給付に係る負債	10,017	10,144
資産除去債務	1,298	1,314
その他	10,656	10,416
固定負債合計	72,019	82,702
負債合計	192,339	204,720
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	17,606	17,607
利益剰余金	125,489	126,097
自己株式	△4,961	△4,962
株主資本合計	158,134	158,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,747	11,646
繰延ヘッジ損益	△88	△83
土地再評価差額金	8,815	8,677
為替換算調整勘定	△142	△626
退職給付に係る調整累計額	△2,354	△2,194
その他の包括利益累計額合計	16,977	17,419
非支配株主持分	2,982	2,943
純資産合計	178,094	179,105
負債純資産合計	370,434	383,825

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	154,698	156,298
売上原価	117,211	120,112
売上総利益	37,486	36,185
販売費及び一般管理費	32,417	31,159
営業利益	5,069	5,026
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	321	302
持分法による投資利益	308	191
その他	388	197
営業外収益合計	1,020	694
営業外費用		
支払利息	56	92
為替差損	48	53
その他	89	101
営業外費用合計	194	246
経常利益	5,894	5,474
特別利益		
固定資産売却益	7	2
特別利益合計	7	2
特別損失		
固定資産売却損	0	7
固定資産除却損	331	330
減損損失	118	304
その他	51	89
特別損失合計	501	731
税金等調整前四半期純利益	5,400	4,744
法人税等	1,467	1,550
四半期純利益	3,933	3,193
非支配株主に帰属する四半期純利益	108	16
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,825	3,176

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	3,933	3,193
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△899	820
繰延ヘッジ損益	△35	5
為替換算調整勘定	100	△536
退職給付に係る調整額	77	158
持分法適用会社に対する持分相当額	4	79
その他の包括利益合計	△752	527
四半期包括利益	3,180	3,721
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,073	3,757
非支配株主に係る四半期包括利益	107	△35

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,400	4,744
減価償却費	4,025	3,955
減損損失	118	304
持分法による投資損益 (△は益)	△308	△191
のれん償却額	23	21
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5	△14
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,234	△2,317
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	164	△141
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△90	308
ギフト券引換引当金の増減額 (△は減少)	△2	△2
固定資産除売却損益 (△は益)	324	335
受取利息及び受取配当金	△323	△305
支払利息	56	92
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,316	△4,241
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△36	△1,682
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,649	2,138
その他	1,398	2,296
小計	9,852	5,301
利息及び配当金の受取額	381	404
利息の支払額	△90	△86
法人税等の支払額	△1,532	△3,528
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,610	2,090
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	7
貸付けによる支出	△16	△52
貸付金の回収による収入	13	1
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,491	△6,192
有形及び無形固定資産の売却による収入	90	4
投資有価証券の取得による支出	△98	△5
その他	△14	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,516	△6,257
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△15	171
長期借入れによる収入	—	10,000
長期借入金の返済による支出	△401	△417
自己株式の取得による支出	△1	△1
配当金の支払額	△2,652	△2,658
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
その他	△204	△236
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,278	6,855
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△102
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,819	2,585
現金及び現金同等物の期首残高	14,303	15,524
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	168	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,291	18,109

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
外部顧客への売上高	61,091	72,305	12,373	145,770	8,927	154,698	—	154,698
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,212	24	241	3,478	3,215	6,693	△6,693	—
計	64,304	72,329	12,615	149,248	12,142	161,391	△6,693	154,698
セグメント利益	2,757	1,456	638	4,853	238	5,091	△22	5,069

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業及び不動産賃貸事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額 △22百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

乳製品セグメントにおいて、前第1四半期連結会計期間より、アダーデライツオーストラリア有限会社(Udder Delights Australia Pty Ltd)は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は830百万円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
外部顧客への売上高	65,793	69,566	11,846	147,206	9,092	156,298	—	156,298
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,985	28	203	3,218	3,737	6,955	△6,955	—
計	68,779	69,594	12,050	150,424	12,829	163,253	△6,955	156,298
セグメント利益	3,252	874	714	4,841	280	5,121	△94	5,026

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業及び不動産賃貸事業等が含まれております。

2. セグメント利益の調整額 △94百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。